

## 入試室、この一年

学長補佐(入試担当)

松川 利 広

### ■ 入試室開設

入試室は、「受験生の動向を的確に把握し、入試に関する事項に迅速かつ機動的な対応をとるため、審議と企画・立案・執行の実施により、入試業務を行う」ことを目的として、平成17年4月1日に開設された。この背景には、少子化の進行や大学等進学率の上昇等により入学者選抜を巡る状況が大きく変わり、新しい考えに基づく入試設計が求められるようになってきたという事情がある。

入試室は、上野副学長(室長)、堀江事務局長、河上教授、川那部教授、宇田助教授、荻野入試課長、松川(幹事)の7名からなり、原則として、週一回の割合で会議を開き、この一年、精力的に活動してきた。以下、主だった事項・行事について振り返り、明日の入試室を展望したい。

### ■ 平成18年度入試の実施

教員の需要の高まりに 대응するため、本学では教育学部二課程を再編し、平成18年度より学校教育教員養成課程の入学定員を130名から180名に増員。それに伴い、総合教育課程は、従来の5コース(入学定員125名)から3コース(入学定員75名)に再編。これは、昨年3月、昭和61年度以降続いてきた教員養成課程定員の国による抑制方針が撤廃されたことにより可能となった再編である。

再編に係る情報の周知期間が短く心配したが、

昨年度の入試を超える多くの志願者が集まり、奈良教育大学の支持基盤の確かさと広がりを感じることができた。このような受験生や高校との信頼関係こそ、入試のみならず大学教育を支える生命線であり、今後とも大切にしていかなければならないと考える。

### ■ 推薦入試(地域枠)の導入

「奈良の先生をもっと奈良教育大学で」という願いから、学校教育教員養成課程に、奈良県内の高校を卒業(二浪)または卒業見込みの学生を対象に、推薦入試の定員枠(10名)を18年度入試から新たに設けた。推薦入試に地域枠を設けることが可能となったのは、国立大学法人化(平成16年度)以降、「国立」大学であっても地域に貢献する人材の育成を大学の特色の一つとして掲げることができるようになったからである。

推薦入試(地域枠)で入学を許可された人は、各自希望するコース・専修で学修を進めることになる。それぞれの専門性を身に付け、人間として一回りも二回りも大きくなって、奈良の先生として育ってほしいと願っている。

### ■ オープンキャンパス

入試に関する情報は、パンフレット、雑誌、ホームページ等を通して発信しているが、なかでもオープンキャンパスや進学説明会(企業主催)は、本学について理解を深めていただくうえで大事な場として受け止め、入試室も積極的にかかわって

きた。

平成17年8月5日のオープンキャンパスには、奈良教育大学へ関心の高さが大勢の参加者となって表れ、あちこちで熱のこもったコミュニケーションが生まれ、受験生にとっても大学にとっても大変有意義な時間と場を持つことができたように思う。

また、オープンキャンパスを通して、高校生や受験生は、選抜方法に加えて、大学で何を学ぶことができるか、どのような教員がいて、どのような研究をしているか等々、大学教育の方法や内容にも強い関心を持つことが分かってきた。そのようなニーズに応えるために、入試室は、もともと受験生の目線に立ったオープンキャンパス・プログラムを開発していかねばならず、また、そのプログラムをより実効性のあるものにするために、より良い教職員の連携システムを構築していかなければならない。オープンキャンパスは一つのイベントだが、その大学自体の力が典型的に表れるため、自己点検評価の指標としての機能を有していると思う。オープンキャンパスの質、量の向上は、奈良教育大学の「大学力」の向上そのものである。

### ■ 入試フォーラムの開催

平成17年11月30日、入試フォーラムを開催(入試室主催)した。講師として、(社)日本能率協会学校法人経営支援センター主任研究員・田岡頼光氏を迎え、「入試から見えてくる奈良教育大学の現状と課題」について講演をお願いした。このようなフォーラムは初めての試みだったが、教職員は入試の実態を知るにとどまらず、修学支援、学生生活支援、就職支援等のあり方を考えるうえで、多くの示唆を得ることができ、有

# 入 試 室

意義な会になったと思う。

## ■平成19年度入試の策定

二課程再編に伴い、平成19年度入試は大きく変わる。入学者選抜にあたっては、多様化・多元化を進めた。推薦入試（地域枠・学校教育教員養成課程）の継続、推薦入試（一般・学校教育教員養成課程）と前期日程（学校教育教員養成課程・総合教育課程）は専修単位、後期日程は、学校教育教員養成課程がコース単位、総合教育課程が専修単位とした。選抜方法も、受験生の多様な可能性を評価するために、基礎学力型、意欲・適性をみる面接型、専修を視野に入れた学科試験型、専修を視野に入れた小論文型等々を導入し、大学教育の活性化につなげたいと考えた。

## ■これからの入試室

近年、卒業生の質は、「どの大学に入学したか」ではなく「大学において何を学んだか」によって判断されるようになってきた。それだけに、学生には高い付加価値（課題探求能力を持ち、その上に専門的な能力や技能を身に付けていること）が求められようになり、また大学も学生にどれだけの付加価値を付けられるかが問われるようになってきた。

今後は、学生が入学後、どのような成績を修め、どのように学生生活を過ごし、どのような進路を選択したか等々の検証を行い、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に照らして、選抜方法の評価を第三者をも含めて適切に行っていく必要がある。その場合、求める学生像を一義的に規定するのではなく、多様な学生を受け入れ、個性豊かな学生が学び合う、活力のある学園を創造していくことを忘れてはならない。

そのような意味において、入試室は、就職支援室、教育課程開発室（18年度から開設）と緊密に連携しながら、大所高所から入試設計をしていく必要がある。



オープンキャンパスでの相談コーナー



入試フォーラム

URL

受験生の方へ

[http://www.nara-edu.ac.jp/01\\_jukensei.htm](http://www.nara-edu.ac.jp/01_jukensei.htm)